

様式 F - 7 - 1

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）（平成30年度）

所属研究機関名称		大妻女子大学	機関番号	32604
研究 代表者	部局	比較文化学部		
	職	准教授		
	氏名	高田 馨里		

1. 研究種目名 基盤研究(C)(一般) 2. 課題番号 17K03187

3. 研究課題名 第二次世界大戦期、空爆標的地図にみる米英連合国の空爆戦略の転換

4. 補助事業期間 平成29年度～令和元年度

5. 研究実績の概要

前年度までに第二次世界大戦期における米英連合国の地図作成協力体制について研究調査を進め、ヨーロッパ戦線で用いられた爆撃標的地図の作成過程を考察した。これにより、ヨーロッパ戦線における空爆作戦の変更（白昼精密爆撃からレーダーを用いた爆撃へ）が、アジア・太平洋戦線における地域爆撃・じゅうたん爆撃にどう連なっていくのかを検証することが可能になったと考える。2018年度は、イギリスの英国図書館地図室と英国立公文書館で調査を進め、1943年から1944年にかけて米英豪連合国がアジア・太平洋方面の地図・海図を共有していたという地図史料コレクションならびに文書史料を調査し、分析している。これにより本研究が期間内に明らかにしようとする課題（2）戦線における地図作成を含む空爆作戦準備、実際の空爆戦略そして空爆評価という一連のプロセスを調査し、「精密爆撃」方針から「地域爆撃」へと転換したのかについて考察した。

2018年度はこれら一連の研究調査を踏まえて、社会・国民に発信するため、愛媛大学で開催された第48回空襲・戦災を記録する会全国連絡会議で、二つの研究成果報告を行った。一つ目は、同じく愛媛大学で開催された第19回米軍史料の調査・活用に関する研究会で、第二次世界大戦期の米英両国の空爆地図調査方法について報告した。二つ目は、全国各地の空襲調査報告が行われる本大会で「第二次世界大戦における米英爆撃標的地図の変容」について報告した。参加者との質疑応答を通じて、ヨーロッパ戦線からアジア・太平洋戦線への空爆作戦の連続性と断続性について一層研究を進める重要性を認識することができた。

6. キーワード

地図史 米英関係 第二次世界大戦

7. 現在までの進捗状況

区分 (2) おおむね順調に進展している。

理由
当初計画通りの課題の考察とその発表を行うことができたため、おおむね順調に進展していると考えます。

2 版

8. 今後の研究の推進方策

最終年度も引き続き米英豪連合軍によるアジア・太平洋戦線の地図作成協力と、ヨーロッパから軸が移りつつあった沖縄戦・日本本土空爆作戦準備のための地図作成プロセスについて調査するため、イギリスでの史料調査を行う。その成果を踏まえて2019年度後半に学会発表を行い、その成果を論文として発表する予定である。

9. 次年度使用が生じた理由と使用計画

購入予定の図書が年度内に間に合わなかったため次年度以降に購入を繰り越すことにした。

10. 研究発表（平成30年度の研究成果）

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 高田馨里
2. 発表標題 大戦期米英爆撃標的地図の調査について 米英地図の関連性
3. 学会等名 第19回米軍史料の調査・活用に関する研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高田馨里
2. 発表標題 第二次世界大戦における米英爆撃標的地図の変容
3. 学会等名 第48回空襲・戦災を記録する会全国連絡会議
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

1 1 . 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

計0件（うち出願0件 / うち取得0件）

1 2 . 科研費を使用して開催した国際研究集会

計0件

1 3 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

-

1 4 . 備考

-